

国立大学法人福岡教育大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

福岡教育大学は、学術の中心として深く専門の学芸を研究教授するとともに、広く知識技能を開発し、豊かな教養を与え、もって有為な教育者を養成し、文化の進展に寄与することを目的としている。第2期中期目標期間においては、質の高い教員養成と生涯学習社会において指導的役割を果たす広義の教育者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、教育の質を保証するため、教員養成課程・生涯教育課程に応じた教育の到達目標を策定し、それぞれの課程におけるカリキュラム体系性や系統性を評価する基準を明確にするなど「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 監事監査において「教育実習において大学教員の学生指導を充実し、責任を持って実施されたい」という意見があったことを踏まえ、大学教員の教育実習への参観人数を大幅に増やすとともに、教育実習期間におけるメンタルヘルスを含めた緊急事態に迅速に対応できるよう「緊急時対応マニュアル」を策定するなど、意見を大学運営に反映している。

【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 資金運用について、短期運用の実施や運用対象金融機関を拡大させたことにより、運用実績が上がっている。
- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成18年度からの6年間で6%以

上の削減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 外部評価委員会を開催し、外部有識者からの意見や要望について、順次改善すべく、検討・準備を行っているなど、大学運営の活性化に努めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 三位一体の改革として、大学のミッション及び社会からの養成を踏まえた学部学生定員の適正規模化を行う「教育組織の見直し」、平成25年度からの新カリキュラム導入を目指し、教育実習の改善や小学校専門科目9科目の必修化及びボランティア活動の充実も含むカリキュラム改革を行う「教育内容の質の向上」、各センター等の再編統合を行うことにより研究機能の強化を図る「研究の質の向上」を推進している。
- 学士課程の目的に応じた教育プログラムを提供するため、平成22年度において策定したディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、アドミッション・

ポリシーについて必要な修正を行っている。

- 学部のカリキュラム改善に関する基本方針として「平成 25 年度カリキュラム改訂に向けた基本方針」を策定するとともに、大学院においても教育体制の改善及びカリキュラムの改善に着手している。
- 教育実習における学生のメンタルヘルスの支援充実のため、附属学校での教育実習に参加する学生の健康調査を実施するとともに、教育実習に参加した際にメンタル面で不調となった学生の事例を収集・分析し、「教育実習緊急時における対応マニュアル」を策定して教職員に周知している。
- 平成 25 年度から全面実施する科目「教職実践演習」に関して、履修カルテの具体的な活用方法や指導体制を検討するために、試行科目「教職総合実践演習」の受講者及び授業担当者にアンケート調査を実施し、それに基づいて平成 24 年度に開講の「教職総合実践演習」の試行指針を決定している。

(教員就職状況)

- 平成 23 年 3 月卒業者（教員養成課程）の就職状況は卒業者 432 名に対し、正規採用が 111 名、臨時的任用が 154 名で、平成 23 年教員就職率は 61.3 %、進学者等を除くと 67.1 %となっている。

Ⅲ. 東日本大震災への対応

- 「宮城教育大学教育復興支援センター」と連携し、被災地の教育支援ボランティアとして学生を派遣している。
- 震災で被災した学生や研究者等に対して、ウェブサイト上で、不安等に対する相談や修学・研究の場を失った学生や研究者に対する機会の提供等に対する相談に応じている。
- 被災した学生に対して、検定料及び授業料免除の特別措置を講じている。